

L-カルニチン投与による透析時低血圧の改善効果

長崎腎病院

○山口由紀 林田征俊 白井美千代 丸山祐子 佐々木修 一ノ瀬浩
李嘉明 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越 哲

【背景・目的】

維持透析患者における L-カルニチン投与の臨床効果は、ESA 量の削減に関する報告は多いものの、血圧の安定化に関するデータは少ない。今回我々は L-カルニチン静注投与による透析時低血圧の改善効果について検討した。

【対象・方法】

当院で維持透析中の患者のうち文書で同意が得られた 69 名に対し L-カルニチンを毎透析後に 1000mg 静注投与し、透析間の血圧下降率の変化を検討する。

【結果】

L-カルニチン投与 3 ヶ月の時点で、評価可能症例は 69 名中 65 名で、この期間中の透析時血圧降下率は、開始前の $-17.9 \pm 20.0\%$ から $-15.2 \pm 15.5\%$ と改善がみられたが有意ではなかった。著効例（改善率 $>10\%$ ）は 19 名（27.5%）にみられ、この傾向としては、非糖尿病・65 歳以下・Hb 値 11 g/dL 以上・降圧剤の服用なし、などが挙げられた。

【考察】

L-カルニチン静注投与は、非糖尿病・若年・降圧剤の投与なし、において透析時低血圧を改善する可能性がある。